

## 他人をゆるすという生き方へ

ルカによる福音 6:39-45

（そのとき、イエスは弟子たちに）たとえを話された。「盲人が盲人の道案内をすることができようか。二人とも穴に落ち込みはしないか。弟子は師にまさるものではない。しかし、だれでも、十分に修行を積み、その師のようになれる。あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって、『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。」

「悪い実を結ぶ良い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる。茨からいちじくは採れないし、野ばらからぶどうは集められない。善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。」

### 説教

福音書を読み進めていくと、あれっ、これどこかで読んだことあると気づくことがあるとおもいます。福音書の平行箇所とよばれています。きょうでルカの平地の説教はおわりになりますが、これはマタイの山上の説教（マタイ5-7章）との平行箇所でした。マタイではパリサイ派との対立という背景があって説教が構成されていますが、ルカではこの対立はなく、民衆に向かったの説教というかたちになっています。どっちが本当？という疑問もでてきますが、どっちもほんとうで、どっちもうそ？いまになってはよくわかりません。たぶんいろいろな場面ではなされたイエスのみことばを、マタイなりに、ル

力なりにまとめた、みことば集とされています。これらのことばをただの道徳と受け止めず、私たちはイエスのいのちのことばとして聞いてみましょう。

**あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。ルカ 6:41-42**

往々にして、私たちは人の欠点はよく見えますが、自分の欠点は見えにくいものです。だから、まずは自分の欠点を取り除いてから他人のことに注意を向けなさい、とイエスはおっしゃっているのでしょうか。

ここで、もう一步踏み込んでみると、イエスさまは「自分の目にある丸太に気づくということが大切です」と私たちに気づいて欲しいと思っ

ているのではないのでしょうか。それは、自分のありのままの姿を感じ、気づくことを意味しています。ただ、それだけでいいのです。人は、自分の体と心の弱いところ、辛いところに気づくこととき、相手に対しても優しくなれます。イエスさまが言われる「まず自分の目から丸太を取り除きなさい。」とは、自分の欠点を裁くのではなく、その欠点を受け入れるということです。自分の欠点を受け入れるとき、相手の欠点も受け入れることができます。ここに福音の「ミソ」があります。

でも、自分の目にある「丸太」を受け入れることは易しいことではありません。なおさら、相手の欠点を受け入れることは難しいことです。だからこそ、わたしたちは「私の丸太に気づかせ、受け入れることができますように」とイエスさまにお願いすることからはじめましょう。

-----